

(令和3年度) 自己評価表

愛媛県立宇和島東高等学校 (定時制)

学校番号 40

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	自らを信じ 自らを鍛え 夢の実現を
------	---	------	-------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現	わかる授業・考える力が身に付く授業の実践	生徒の授業満足度100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	B	授業満足度のアンケート結果は、96% (5点満点中4.8) であった。	生徒の自己実現がかなう履修選択ができるよう、時間割編成等を精査するとともに、授業参観や各種研修を通して、教員の資質向上を図る。
		教員の研修参加5回以上・授業参観・研究授業参加5回以上	B	研修については、80%の教員が5回以上参加した。授業参観・研究授業については、ほぼ全ての教員が5回以上参加した。	積極的に各研修に参加し、教員の資質・能力の向上に努める。相互授業参観週間の実施時期や回数を精査し、授業に関する教員間の交流の機会が増えるように工夫をする。
	学習習慣の確立	各教科小テスト月1回以上	B	各教科で小テストに取り組んでいるが、回数については教科間で差があるものの、月に複数回実施している教科もあった。	学習意欲向上つながらうような小テストを計画的に実施するとともに、生徒の学習習慣の確立に向けて、今後も粘り強く取り組む。
	希望進路の実現	進路指導講話4回以上	B	年度内に、進路セミナー2回と講話2回の合計4回を実施する見込みである。	進路セミナーにおいては、生徒の進路意識向上に向けた内容の充実を図る。
		就職内定(正規採用)率及び進学決定率100% A : 100% B : 99~85% C : 84~70% D : 69~55% E : 55%未満	—	1月末までの集計で、進学希望者2名合格、就職希望者1名合格であった。進学希望者1名、就職希望者2名は今後受験予定である。	全員が第一希望に合格できるように、次年度も早めの指導を実施し、進路意識の向上を図る。

※評価は5段階 (A:十分成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的な生活習慣の定着	挨拶の励行と式典での正装率100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	B	ほとんどの生徒が自発的に爽やかな挨拶ができるようになった。式典における正装率は100%である。	正装については、引き続き清潔感のある着こなしも含め、指導の徹底を図る。挨拶については、教員から積極的な挨拶や声掛けを行い、コミュニケーションを大切にする。
		年度末出席率90%以上 A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	A	1月末までの集計結果は、90.4%であった。	新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の影響が大きく、個別支援により一層力を入れる。
	自分を大切に、他人のことを考えて行動できる生徒の育成	人権侵害・いじめ防止のための取組20回以上 A : 20回以上 B : 19~17回 C : 16~14回 D : 13~11回 E : 10回以下	A	ホームルーム活動での取組や学校生活のアンケート調査、全校面談など24回実施した。	いじめの積極的な認知に努めるとともに、いじめの未然防止に向けた取組を充実させ、よりよい指導の在り方について検討する。
		ボランティア活動2回以上参加100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	D	1月末までの集計結果は、8回の活動のうち、2回以上参加した生徒は72%、1回以上参加した生徒は90%であった。	清掃活動だけでなく、レモンの収穫や学校行事の準備など、生徒が参加したいと感じる活動を積極的に取り入れる。
	一人一人の尊重及び悩み・トラブルの解消	正担任面接5回以上、副担任面接2回以上	A	正担任面接5回以上は100%であった。また、副担任面接2回以上も100%であった。	正担任と副担任の連携を密にし、生徒が悩みを相談しやすくなるよう、それぞれの持ち味を生かして面接の充実を図る。
	コミュニケーション能力・表現力の向上	生徒生活体験発表の指導の充実・県大会入賞(4位以内)	B	生徒それぞれに発表原稿を作成し、精一杯取り組んだ。また、南予大会に3名が出場し、立派に発表を行った。内1名が優秀賞を受賞した。	生徒生活体験作文を作成、発表する意義などについて生徒に丁寧に指導し、より前向きに取り組ませる。

※評価は5段階(A:十分成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事満足度100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	B	「大変満足」「満足」「概ね満足」を合わせると99%であった。	生徒会を中心に、事前に希望調査等を実施するなど、全ての生徒の声を積極的に反映できる行事を工夫する。
	部活動の充実	県定通総体参加率90%以上 A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	B	大会参加承諾書により、承諾が得られた生徒の参加率は100%であった。残留生徒を含めた参加率は80%であった。	体育の授業で種目の楽しさを体感させ、自発的に選手として参加するよう促し、参加率90%以上を目指して指導を行う。
		部活動重点活動日における生徒参加率60%以上 A : 60%以上 B : 59~55% C : 54~50% D : 49~45% E : 45%未満	E	1月末までの集計結果は、40%であった。個別の参加率では、100%を超えた生徒が3名いた。	各部顧問と連携を強化し、積極的に参加できる雰囲気作りを図る。選手としてだけではなく、マネージャー的立場での参加など柔軟な運営を図る。
業務改善	適切な勤務時間	1か月の時間外勤務時間の合計30時間以内100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	C	1月末までの集計結果は、87.0%であった。定時制の業務に係る勤務時間は適正であり、概ね平準化できている。	職員間の連携を図りつつ、勤務時間を意識した働き方を浸透させ、更なる業務の適正化と効率化を図る。
	ワーク・ライフ・バランスの適正化	ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じる教職員の割合100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	C	調査結果は、「十分取れている」「取れている」を合わせて80%であった。	風通しの良い職場作りに努め、心身の健康はもとより、仕事も家庭生活も充実させることができるよう、引き続き、適正な休暇取得を推進する。

※評価は5段階（A:十分成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった）